

カリキュラム区分		現行カリ			シラバス区分		専攻科		
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位	
		学年	学期						
助産学実践領域	S112	1年	前期	助産学専攻科	必修	統合ヘルスケア	30	1	
						Integrated Health Care			
担当教員									
井上 明子		田中 洋子＊		三宅 彩香＊		谷村 依里＊		野上 みき＊	
関連するDPキーワード									
	① 生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる。								
	② 助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる。								
○	③ 女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる。								
○	④ マタニティサイクルにある対象の個性性を尊重し、対象のもつ力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる								
	⑤ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる。								
○	⑥ 周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている。								
	⑦ 助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている。								
授業目的									
女性の健康支援やマタニティーサイクルの助産ケアにおいて、対象が持つ自然の力を引き出す関わりの意義を理解し、その手段として、代替療法(補完医療)や日常生活における運動や癒し、食生活など様々な側面から心身を整える取り組みに関する理論や有効性、ケアの実際について学ぶ。									
到達目標（授業目標）									
1. 西洋医学と代替療法(補完医療)を統合した、ヘルスケアの考え方について説明できる。 2. 女性や母子がセルフケアによって健康レベルを高めるための具体的方法について、自分の体で感じた「気づき」をもとに助産援助への活用のありかたを考察することができる。									
回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
1回	統合ヘルスケアと助産師：統合ヘルスケアとは 女性の健康・母子の健康とセルフケア [井上]								
2回	運動によるからだづくり（１）：骨盤ケア [井上]								
3回	運動によるからだづくり（２）：マタニティーヨガ [野上]								
4回	代替療法を助産に活用する（１）：アロマオイルを用いた助産ケア [三宅]								
5回	代替療法を助産に活用する（２）：東洋医学 [谷村]								
6回	代替療法を助産に活用する（２）：東洋医学 [谷村]								
7回	食生活を整える：母子の栄養 ・妊産婦のための食事バランスガイドの活用方法・貧血の食事指導・減塩食の食事・便秘における食事・冷え対策の食事 [田中]								
8回	食生活を整える：母子の栄養 ・妊産婦のための食事バランスガイドの活用方法・貧血の食事指導・減塩食の食事・便秘における食事・冷え対策の食事 [田中]								
9回	食生活を整える：母子の栄養 ・妊産婦のための食事バランスガイドの活用方法・貧血の食事指導・減塩食の食事・便秘における食事・冷え対策の食事 [田中]								
10回	食生活を整える：母子の栄養 ・妊産婦のための食事バランスガイドの活用方法・貧血の食事指導・減塩食の食事・便秘における食事・冷え対策の食事 [田中]								
11回	食生活を整える：母子の栄養 ・妊産婦のための食事バランスガイドの活用方法・貧血の食事指導・減塩食の食事・便秘における食事・冷え対策の食事 [田中]								
12回	親子のきずなづくりを支援する：ベビーマッサージ [三宅]								

13回	研究的知見を活用した助産ケア：研究報告を活用した女性の健康を促す関わり	[井上]				
14回	統合ヘルスケアの臨床への応用（１）：統合ヘルスケアの視点を効果的に伝える手段	[井上]				
15回	統合ヘルスケアの臨床への応用（２）：助産師としての統合ヘルスケアの実践への活用	[井上]				
16回						
17回						
18回						
19回						
20回						
21回						
22回						
23回						
24回						
25回						
26回						
27回						
28回						
29回						
30回						
成績評価方法及び基準						
井上：各実践レポート(60%)、貧血の保健指導で活用する媒体の作成（20%） 田中：食生活を整える項目における課題（20%） トータル60点以上を合格とする。						
教科書	我部山キヨ子・武谷雄二「助産学講座3 母子の健康科学」（医学書院）					
参考図書等	第13回：中村幸代著（2019）「ウィメンズヘルスケア・サポートブック 根拠に基づく 冷え症ケア」（日本看護協会出版会）					
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）						
各実践演習のレポートや保健指導案の立案については時間外学習が必要となる。						
関連科目						
前科目	S107 助産診断・技術学Ⅰ	S108 助産診断・技術学Ⅱ	S109 助産診断・技術学Ⅲ	S110 助産診断・技術特論		
後科目	S118 助産学実習Ⅰ	S119 助産学実習Ⅱ	S120 助産学実習Ⅲ			
実務家教員						
備考	本科目では主に講義、演習から学ぶため、女性である自分の体と向き合う機会となると思います。また、その学びを継続事例の保健指導に活かせるものへと導きます。					